

聖句：マタイによる福音書 21 章 42 節

『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』

高1 M.S.

私は今回、感話を書くにあたって自分の中にいる自分とは何かを考えることの大切さに気が付くことができました。この何週間にわたり何度も自分を振り返りました。自分を振り返るといっても「過去に自分が経験したこと並べていけばいいんでしょ。」とか思う人もいるかもしれません。私は当初そうでした。しかし、過去のことを並べていだけでも自分が忘れていたその時の感情や、自分自身が何によって動かされたのかを思い出すことができます。そして、私自身は何なのだろうということを見つけ出す手がかりになってゆきます。

私の場合、自分の中にいる自分とは何だろうと考え始めたのは、高校生になってからで、ごく最近のことです。中学生のころは、きちんと自分と向き合わずダラダラと日々を過ごしていました。本気でやっている事といえば、部活で、毎日厳しい練習をチーム全員で乗り越えていくのはとても辛いけれど、充実していました。

そんな中、私は中二の時、目標であった県選抜に選ばれなかったことがきっかけで先生やチームのみんな、家族にとっても迷惑をかけることになってしまいました。バスケに熱中できた理由の一つであった県選抜という目標を達成できなかった私は、無気力になりました。そんな空っぽな自分の中の自分に支配されてしまった私は、勉強においても、部活においてもやる気を出すことができず、負のスパイラルから抜け出せなくなってしまいました。友達から励まされても、素直になれなかったことにも嫌気がさしてくるようになりました。この時の内側の私は、とてもひねくれていて自分ではないと否定をしたくなるようなものでした。少しの衝撃でも欠けてしまうような硬くてもろい何かが私の中にあっただのです。

中三のころは、このままダラダラと自分の学生生活を過ごしていくのが嫌で、何か変化が欲しいと思っていました。だからか、自分の興味のあることは、調べ上げ、自分の中に取り込んでいきました。そのおかげか、映画や小説などがとても好きになりました。そして、私とは全く違う人生を体験できるかのような感覚になるのを楽しめるようになりました。

また、人の話を聞くとときに何か自分にとって必要なことを言っていないか探るようになりました。このことは、私の心の中の何かかたいものを、少しずつでも溶かしていこうとしてくれました。

高校生になり、初めてのキリスト教強調週間で、安積先生のお話を聞き、心が柔らかくなっていくような感じがしました。今までの私だと、恥ずかしながら、「つまらないし、重たい内容だし、眠たいなあ。」とか思っていました。だけど、私は自然と話に聞き入り、また受け止めてみようと思うことができました。なにかこれまで頑固で反発的だった私の中にあるものの根底の部分をつつかれたのかなと思いました。こうして、思ってもみなかったところで私の心は、変化しました。

また、進路を考えることで、私はまたもや内側の自分と向き合わなくてはなりませんでした。何がしたいのか、本当にしたいことがみつかるのか、先の見えない将来に焦りと不安で心はいっぱいになり、投げ出したくなりました。友達はまだきちんと決めているのに私だけひとりぼっちでこのまま時間が過ぎていくんだという考えに至り、涙も流してしまうほど自分のことが分からなくなっていました。

私は、小さい頃から今でも涙と仲良しで、何か辛いことがあるたびにすぐ泣いてしまう泣き虫です。私の涙は多種多様で、嬉しかったり感動したりするときや、苦しかったりするとき流れます。また自分と向き合うとき、ふと流れたりするものもあります。これは、感情とは別に自分自身の中で、何かがそうさせているような、自分でもよく分からない涙なのです。よく分かりませんが硬い自分の心を溶かしていくような感覚があります。

実際、この感話を何度も練り直し、長谷川先生に改めて自分の中の自分を言葉に表現したとき自然と涙がこぼれてきました。それから不思議と内側の自分とうまくやっていけるような自信が少しずつつながらわいてきました。このような涙があることにも、私自身驚きました。

私にはまだ自分の中にあるものの正体は分かりませんが、きっとこれからも向き合っていかなければならないし、内側の自分を大切に、日々をしっかりと歩んでいきたいです。

司会：高1 A.F.

#### 【お祈り】

お祈りをします。今日も礼拝をもってはじめられたことに感謝します。お話を聞いて、自分の中にいる自分と向き合うことは簡単なことではないけど、内側の自分を大切に、一つひとつ乗り越えていこうと思いました。また、過去の自分を振り返ることは、これからの成長にもつながると感じました。テストも終わり、冬休みも近くなっていますが、体調を崩さず楽しいクリスマスを迎えられるようお守りください。

この祈り、主イエス・キリストの御名によってお捧げします。アーメン